

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和5年3月分）

### 【製造業】

○製造業は、1月の鉱工業生産指数は前月比▲14.0%となった。ヒアリングでは、海外向け自動車部品の生産が好調であるなど、業況回復の兆しが見え始めているとの声や、価格転嫁を受け入れてもらえる取引先が増えてきたとの声が聞かれた一方で、売上は回復傾向の状況下で、賃上げやエネルギー費用の高騰により、利益率は減少傾向にあるとの声が聞かれた。

### 【地場産業】

○地場産業は、1月の鉱工業生産指数は、食料品、パルプ・紙、家具、窯業・土石、繊維工業で上昇した。ヒアリングでは、需要の回復により売上はコロナ前まで戻りつつあり、価格転嫁の気運も高まっているとの声や、既存商品への価格転嫁は困難であるため、需要が多い海外向けに、原材料の上昇分をカバーしうる高額商品を開発するとの声が聞かれた。

### 【設備投資】

○設備投資は、2月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲10.7%となった。ヒアリングでは、受注が増加している海外向け製品や競争力がある自社オリジナル商品を製造するため、新規設備を導入したとの声や、CO2排出量を削減するため、再生可能エネルギーに替えたとの声が聞かれた一方で、自動車のEV化への見通しが現状不透明であるため、大規模な投資は見合わせているとの声が聞かれた。

### 【個人消費】

○個人消費は、2月の販売額は、百貨店・スーパー及びホームセンターで前年同月比減少し、全体で同▲0.3%となった。ヒアリングでは、コロナ前の売上に回復している業種とそうでない業種との回復度合いに偏りがあるとの声や、原材料価格やエネルギー費用の上昇分を販売価格に転嫁しているが、消費への影響が懸念されるとの声が聞かれた。

### 【観光】

○観光は、2月の観光客数、宿泊者数はコロナ前の令和元年同月比▲17.1%、▲29.1%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、インバウンド客が増加しているとの声が聞かれた一方で、食材を中心として原材料費やエネルギーコストが高騰し、経営を圧迫しているとの声や、人材不足が深刻化しており、外国人雇用や非正規雇用を増やす予定であるとの声が聞かれた。

### 【資金繰り】

○企業の資金繰りは、2月の制度融資実績は、金額は22ヶ月ぶりに前年同月比増加した。金融機関からは、今後の仕入れコストや金利の上昇を見込んで、運転資金を調達する動きが目立つとの声や、後継者難により廃業するケースや息切れ型倒産が目立つとの声が聞かれた。

### 【雇用】

○雇用面は、2月の有効求人倍率は1.64倍と18ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、人手不足に対応するべく、70歳以上まで雇用継続しているとの声や、理系の人材を採用したいが応募が少ないため、代わりに外国人実習生を採用するとの声、更には、運送業の「2024問題」に直面しており、業界内で人材確保の動きが激化しているとの声も聞かれた。

### 【景気動向】

1月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲5.3ポイント、2月の中小企業の景況感と同6ポイント上昇となった。